神奈川県士会会報　42 号　15 ～ 19 頁（2014 年 2 月）

特集　「PT の起業」

起業，開設の実例　リハ特化型デイサービス

福 島　　努[1)#]

はじめに

2012 年 4 月にリハ特化型デイサービスとしてリハセンター　R-studio を開設して 1 年半が経過した。理学療法士になって 10 年が過ぎ，3 年前の自分が今の姿を想像できていたであろうか？

開設から 1 年半の経過の中で筆者が話せる内容はまだまだ浅はかなものである。今回の執筆依頼をいただいた中で，「想いと行動力があれば実現できる。」そんなことを感じてもらいたい。一歩踏み出す勇気がほしいと願う皆様の胸に届くものがあることを信じて，自身の想いと開設までの道のりを記述させていただく。

理学療法士になるまで

高校時代，自身の怪我を通じて理学療法士になりたい。そんな想いを抱き始めた。理学療法士の専門学校を受験するもすべて不合格。それでも理学療法士になりたいという夢は諦められず，1 年間，地元を離れて予備校の寮へ入って死に物狂いで勉強した。その 1 年間に自分自身と向き合い，理学療法への想いを高め，人間形成をさせてもらったような気がする。

夢はあきらめなければ叶う。「遊びたい」気持ちを自制して努力を積み重ねていくことで夢は現実へとなる。そんなことを痛感させてもらった 1 年だった。

理学療法士になって

理学療法士になって結果を求め，勉強会へ参加していく中，最前線で活躍される先生方，志の高い理学療法士の仲間に出会った。勉強会に参加しインプットしていても，いつまでも憧れる先生方には追いつけない。だからこそ自分達の臨床感をアウトプットできる場所を作りたい気持ちから勉強会（PTB = PT バカ）を立ち上げた。

一度の開催で関東や遠方から参加していただき 100 名を越える参加者ができるほどだった。あの頃は理学療法について語り合うことが何より楽しく，自分たちの臨床感をぶつけ合った。

あの時，自分が踏み出してなかったら，仲間と出会ってなかったら，今というものはなかった。ともに成長してきた仲間。出会いに感謝している。

想いと行動の先に

あの時の仲間が，語り合いが自分の夢を明確にしてくれ背中を押してくれた。

仲間に負けたくない。仲間とは違う自分を見つけたい。時には自分の進む道を間違えそうになって，妄想ばかりが膨らみ，そんなときは本気で止めてくれる仲間がいてくれた。

その頃から，自己啓発本や創業者の書いた本を読むようになった。1 年間で 300 冊読み続け，心に残る言葉をノートに書き残す日々を繰り返していた。本を読み，自問自答しながら，いつか自分も開業したい，そう描き始めたのもこの頃だったのだろう。

出会いは偶然，いや必然的にやってきた。某企業より地域でリハ特化型デイサービスを開設していきたい。理学療法士として，開設，運営を一緒に手伝ってくれないか？ との話をいただいた。もっと深く患者様と関わりたい。新たな道を切り開いていきたい。自分自身の可能性を試したい。そう思い描いていた筆者にとって運命と思える声かけであった。

リハ特化型デイサービスのコンセプトを作り上げていく中で，企業が求めるものと自分自身が描く方向性に違いが生じてきた。そんな中で，自分自身の

1）株式会社　Re ambitious　リハセンター　R-studio
（〒 259-1313　神奈川県秦野市松原町 2-8）
#　E-mail: happy_island_family2106@yahoo.co.jp

想いを曲げるわけにはいかなかった。すべては利用者様が満足してくれる場所を提供するために。誘っていただいた企業に入職することをお断りさせていただき，自分自身の力で起業することを志した。

地域を知る

開設前の半年間，準備期間と地域を知るために，訪問看護ステーションにて訪問リハに携わらせていただいた。訪問リハで働くセラピストとの出会いが僕自身のセラピストとしての考えを変えてくれた。
「利用者様の人生に寄り添う」
地域で必要とされているのは理学療法士としてだけなく，ひとりの人間としてできること。理学療法士というものはひとつのツールでしかないこと。利用者様と笑って，時には涙して，利用者様，ご家族に必要とされる存在であるために，今何ができるのか？ この関わりでいいのか？ 自問自答の日々を繰り返していた。訪問先で利用者様との会話，関わり，在宅に迎えられること。生活の中に介入していくこと。すべての関わりにセラピスト以上に人間力を求められていることを痛感した。この半年間に地域や在宅でのリハビリテーションの可能性に感銘し，やりがいを感じた。

地域における理学療法士として役割

「地域で働く」ということ理学療法士としての使命は何か？

利用者様の生活に寄り添い過ごす時間の中で，身体機能面や精神面の変化を捉える。今というタイミングを察し逃さないこと。予後予測とともに，利用者様の生活や方向性を見いだしていく。時には背中を押し，利用者様の可能性を引き出し，正しい道へと導いていく。見守っていくことこそ，理学療法士としての役割ではないだろうか？

一方で，利用者の人生に寄り添う中で，ひとりの想い，行動では変らないことを痛感している。理学療法士としての地域での役割は専門職として，予後予測，ゴール設定を行い，利用者様の生活を地域とつなげていくこと。ご家族，社会，他職種，他施設との連携。家庭での行動範囲，生活習慣，家族の中での役割。社会参加。復職支援。

「利用者様の生活をつなげる」それこそが「地域で働く」ことだと感じている。

地域に生きる

病院で勤務している時には，患者様の在宅復帰後の生活を想像できていなかったことを今，痛感している。利用者様の人生の中で医療分野では見られないゆっくりとした時間軸の中での奇跡的な回復が存在していることを忘れてはいけない。

地域において利用者様の人生に寄り添いともに生きていく。医療と介護の世界で生きてきたからこそ痛感している。もっとも，どちらが偉いとかすごいとかではなく，両方とも必要な分野であるが。ただ筆者自身は，地域での時間軸での関わりにやりがいや存在意義を感じる一員にすぎない。

リハ特化型デイサービス　R-studioコンセプト

2012年4月，リハセンター　R-studioとしてリハ特化型デイサービスを開設。コンセプトは，利用者様にリハビリにだけ専念してもらいたい。在宅復帰後に十分なリハビリテーションが受けられない。そんな利用者様にとって，本物のリハビリを提供できる場所を作ることに使命感をもって日々，利用者様と向き合っている。

午前，午後の2部構成として3時間の中で，自主性を重視し，自らがリハメニューを選択し行っている。運動はレッドコードを中心に可動性と安定性を高めている（図1，2，3）。

「リハビリの結果＝本人のやる気×時間×正しいプログラム」と考えている。他の利用者様とともに，やる気に満ちた環境で定期的に正しく運動を行うこと。利用者様のリハビリテーションを正しく提供，演出，コーチングしていくことがリハ特化型デイサービスにおいての理学療法士としての役割ではないだろうか？

R-studioをご利用の3時間，ほぼ休憩することなく，どの利用者様も運動を続けられている。ただ頑張るのではなく，気持ちいいと思える運動要素やリラクゼーションに重視したメニューなど必要な要素をひとつひとつの運動の中にちりばめている。その運動量，リハ特化型デイサービスとしてのリハ内容としては日本一だと自負している。

個々の機能を高めていくと同時に，耐久性，筋力，柔軟性という全体的な底上げを行っていくことも必要と考えている。R-studioへ通う利用者様はご自身でも気がつかない中で，驚くほどの回復みせ，その

図 1

図 2

場に携われることにやりがいと存在意義を感じている。地域でも安心してリハビリが受けられる。今後もデイサービスからリハビリテーションの意義，必要性を伝えていきたい。

2013 年 5 月より利用者様の増加とともに同施設の 2 階へと拡張した。今後も R-studio コンセプトを利用者様に提供しながら，この想いが全国へ伝わっていけるように本物を追い求めていきたい。

利用者様との関わり

「あきらめたら，そこで試合終了。」誰もが一度は聞いたことのあるフレーズ。しかし，患者様や利用者様にとって自分自身があきらめてなくとも，周りが，セラピストがあきらめたら試合終了。

在宅復帰した後でも，もっと良くなりたい。そう願う利用者様にとって，自分自身と向き合える場所としてあり続けたいと思っている。

R-studio を利用当初は車いすやひとりで歩けない利用者様も多く存在するが，時間の経過の中で，ひとりで歩けるようになった。痛みがなくなった。以前は寝たきりだったのにと驚異的な回復をみせる利用者様が多く存在する。

病院に勤務している時に，自分たちが当たり前と思っていた関わり。その質の高いリハビリテーション。セラピストとして当たり前と思うことを提供し続けることが大切なことを実感している。

「ここに来てから，また自分に希望が持てた」
「R-studio に通って，毎回元気をもらって帰る」
その一言に，利用者様の成長に，帰りの際の利用者様の笑顔に，自分たちの存在意義，やりがいを感じている。

地域とのつながり（秦野市リハ連絡会）（写真１）

R-studio が開設した同年，2012 年 5 月に秦野市リハビリテーション連絡会を発足した。

現在，市内で毎月 1 回の勉強会兼交流会や介護職や地域に向けて講習会などを実施している。「地域との連携がとれていない」との現状を解決しようと地域で働くリハスタッフに声掛けを行い発足した。

当会は病院，施設などの枠を取り払い，リハビリ

図3

写真1

や介護などに従事する人同士を繋げて「顔の見える関係」を構築する事で，リハビリを受ける人へのより良い生活環境の提供を目的としている。勉強会には，市内や近隣から病院のリハ科，精神科，老人保健施設，デイサービス，訪問看護のスタッフ，介護用具販売者らが個人で参加。毎回約30人が集まり，情報交換などを通し知識を深めている。

リハビリに関わる様々な職種を知りコミュニケーションを取ることはとても有意義であり，最終的にリハビリを受ける方々のためなることを目的に活動を続けている。

実際に，携わる利用者様が複数の施設のサービスを受けている。R-studioの利用者様の過半数以上が1施設のご利用ではなく，病院，デイサービス，通所リハ，訪問リハといったサービスの併用を行っているために，連絡会を通じて，情報交換が円滑となり，ひとりの利用者様に対して，複数の施設のリハスタッフが介入することでの役割分担。顔の見える関係性となった今，利用者様の状況把握，共有によってよりよいサービス提供ができている。

リハビリや介護は病院，訪問看護，老人保健施設などそれぞれの現場だけでは完結しない。今後は行政も含め色々な職種との連携をはかっていきたい。横の繋がりを強くして，自分の専門外の相談も気軽にできるようにし，地域での密な関係を築くための骨組みを作っていきたく活動を続けていきたいと思う。お互いの役割を理解し，共有し，同じ方向性に向かってはじめて，可能性が広がると信じている。

仕事のやりがい，志（自分らしく生きる）

病院にて理学療法士として勤務している際に，自分は求められているのか？ あなたがいなきゃと言われる存在なのか？ 目の前のことに全力投球できているのか？
常に自問自答していた。自分が必要とされる人間になりたかった。自分の可能性を確かめてみたかった。

「どうして開業しようと思ったのですか？」そんなことを聞かれることも多い。
「あなたがいてくれたから」そんな一言が言ってもらいたくて，そんな存在になりたくて，自分の存在価値を追い求めてきたのかもしれない。
「目の前で困った方，家族がいたら R-studio にお願いしたい。」
「R-studio があるから安心だよ。」
「R-studio で働くことが幸せ。」
目の前の利用者様，ともに働いてくれるスタッフ，家族，仲間。自分が関わる人たちが幸せになってくれれば，これ以上のものはない。

開業することは「自由と責任」がいつも背中合わせ。自分で責任をもつからこそ，自由があり，自分の描くビジョンをかたちにできる。病院を退職して半年間，訪問リハに携わりながら，開設準備を行う中，法人を立ち上げ，融資を受けるための資料を作成し，テナントを探し，内装の打ち合わせを行った。デイサービスのコンセプト，開設準備，リハ機器の選定，準備品の管理，デイサービスの申請。ケアマネージャーへの挨拶。振り返れば，激動の半年を送っていたと痛感している。同じ行程をもう一度やれる自信もない。

実現できたのは，ひとつの夢に向かう情熱があったからに違いない。何より作業している瞬間，瞬間が楽しかった。不安よりもワクワク感で満たされていた。僕の前にマニュアルや指標はまったくなかった。できるかどうかではない。やるかどうか。開業とは未知数だらけ，わからないことに対して，視座を高め，その中でベストの答えを導きだす。すべてはリハビリテーションに携わり，わからないなかでも，わからないなりに何をやるべきかを考えてきた経験が役立てたのではないだろうか？

それぞれの立場と役割の先に

開業することが偉いとはまったく思わない。むしろ組織の中で，その場の環境で役割とやりがいを見いだし，少しずつ体制を変えていっている仲間を改めて尊敬している。

物事は大きくは変わらない。その場所で想いを伝え，行動した一歩一歩がつながり少しずつ自分たちの思い描く方向へと導かれていく。それぞれの立場を理解し，役割を持って前に進むことで関わる患者様，利用者様の未来が切り開けていくことを信じている。

おわりに

理学療法士になったばかりの頃，どうやったらあんな先生のようになれるのだろう？ そう思っていた。今思うことは，最前線で活躍されている先生方は今も満足することなく歩み続けていること。自分自身と向き合い行動し続けているからこそ前を走り続けているのだと思う。

だからこそ，今，自分の可能性，限界と思っている枠を越える一歩を踏み出していきたい。

夢は大きいから素晴らしいわけでもない。筆者自身がつかんだ夢は小さなものかもしれない。4年前，第26回神奈川県理学療法士学会にて「やり抜く力」というテーマで初めて，自分自身の想いを話させてもらった。

想いは人に伝えてこそかたちになる。この3年間，自身のブログ（夢のキセキ：http://ameblo.jp/ptbaka/）に想いを書き続け，気がつけば，想いがかたちとなり夢が実現した。
人生にウルトラCはない！
夢を見つけたとき，それだけで1%，実現する確率が生まれる。
その夢でワクワクしたとき，1%，実現する確率が高くなる。
その夢を人に話すと，さらに1%，実現する確率が高くなる。
その夢に向かって努力すると，1%ずつ実現する確率は高くなっていく。
そして，あきらめずに努力をし続けると，いつか実現する確率は100%になっている。

それを教えてくれた，先輩方，仲間のように読者の皆様に何か伝われば幸いである。

まだまだ，夢を追いかけはじめたばかり。1年後の自分に，あのときのお前のがんばりが今につながっているよ。そういってもらえるような人生を送っていきたい。

このような機会を与えていただいただき，夢の軌跡を刻めたことに感謝いたします。

「株式会社　Re ambitious」として，これからも利用者様が「志を再び」描けることができる場所を求めてこれからも走り続けていきます。